

癌の臨床 17: 437, 1971, 18: 517, 1972, Radiology 106: 123, 1973, 113: 681, 1974, Amer. J. Roentgenol. 125: 965, 1975 など) 解釈できることを発表した。

22. ^{99m}Tc -bleomycin (kit 調製) および ^{111}In -bleomycin の腫瘍集積性

伊藤 安彦 市川 恒次
村中 明 横林 常夫
(川崎医大・核)
今城 吉成
(同・放治)

CEA 社により kit 化された ^{99m}Tc -bleomycin (Tc-BLM) と RCC 社の ^{111}In -bleomycin (In-BLM) について基礎的・臨床的検討を行ない次の成績を得た。

1. Tc-BLM の標識率は十分でなくまた調製後の時間の経過とともに free TcO_4^- が多くなった。臨床的に明瞭な腫瘍像を描画できなかった。

2. In-BLM は V2 胆癌家兎において良好な腫瘍親和性を示した。腫瘍対組織比は投与 2 日後の方が大であった。しかし、その比はいずれも $^{111}\text{InCl}_3$ と同程度かまたは後者の方が大であった。また、 ^{67}Ga との同時投与群では、比は ^{67}Ga の方が大であった。

3. 臨床例において肺癌では ^{67}Ga の方が In-BLM よりやや良好であった。

23. 各種癌患者における CEA 値について

佐々木正博 勝田 静知
(広島大・放)
三島 康弘 福原 典昭
秋山 実利 西本 幸男
(同・2内)
川上 広育
(同・1内)

1965 年 Gold 及び Freedman らによって報告された CEA (carcinoembryonic antigen) は現在、Zirconyl Phosphate gel 法 (Hansen 法), Farr 法, 二抗体法などで測定されている。またその臨床的意義については、主として欧米において多くの研究報告がなされている。

私どもは、最近 Roche Kit を用い悪性腫瘍患者の血漿 CEA 値を測る機会を得たので検討を加えた。正常者、喫煙者及び悪性腫瘍患者の血漿 CEA 値は、諸家の報告とよく一致し、肺癌については、病期の進行とともに血漿 CEA 値の上昇が認められ、扁平上皮癌より腺癌に CEA 値が高値を示す傾向にあった。

24. CEA リアキット (ダイナボット) による血清 CEA 測定成績

湯村 正仁 折田 薫三
(岡山大・1外)
湯本 泰弘 三谷 健
(同・1内)

ダイナボットの CEA リアキットが試作され使用する機会を得たので、その成績を報告する。対象は消化器系良・悪性疾患 54 例、肝癌・肝炎・肝硬変 80 例である。CEA 陽性率 (2.5 ng/ml 以上を陽性) は胃癌 28.5%, 大・直腸癌 36.8%, 肝癌 20.0%, 肝炎・肝硬変 25.0% であった。胃癌・大腸直腸癌の陽性例は Stage III, IV である。肝細胞癌の CEA 陽性例は血清 α -feto が 300 ng/ml 以下であり ^{67}Ga -citrate の取込みが良好で Edmondson